

2 目標達成計画

事業所名：ホームとよまね2号館

作成日：平成 28年 5月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合ったものです。また、課題等は、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を掲げております。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	年6回中に、メンバーが関心を持っていたり話しやすいテーマを設け、地域の関係者を呼ぶ工夫や、開催日の検討により活性化を期待したい。	マンネリ化してきている運営推進会議の活性化	各月ごとにテーマを設け、参加者からより沢山の意見を引き出したい。運営の事だけでなく、地域の防災や、認知症や、介護のことについてもテーマとする。事前に推進委員にはテーマを伝え、必要に応じて関係者の参加も依頼する。	12 か月
2	10	家族会を開催し、家族からの意見を引き出せるようにしたほうが良い、日取りの設定や飲食しながら交流できるような楽しみ方など、家族会の方法を工夫しながら、家族がより自然に意見を言いやすい環境の向上を期待したい。	よりいっそう、気軽に家族が意見を言えるよう、普段からの情報提供だけでなく、家族会などの場を設ける。	家族会を実施する。堅苦しい雰囲気ではなく、気軽に意見を出していただけるよう、たくさんの方が参加してくれるよう、日付の設定を工夫し、利用者、職員と一緒に飲食しながら、交流会のような雰囲気で行うこととする。	6 か月
3	26	利用者ニーズとして「人に指図されたくない」等本人の飾らない思いが代弁されているのは新鮮であり、本質的なことと思われる。利用者の気持ちに真摯に向き合うプランづくりは、今後も継続して行ってほしい。	現在のプランを継続しつつ、より良いプラン作成のために、利用者、家族、職員、専門職との連携を強める	利用者本位の支援を行うため、職員、家族、利用者が意見を言いやすい環境を整える。家族会の開催もその一つです。現在のプランを継続し、さらに良いものを作っていくため、職員、利用者、家族、専門職の意見を取り入れ連携し、ともに作り上げていきます。	6 か月
4	1	事例検討において理念を意識していくことで、職員の中で抽象的だったものが具体化していく。利用者のニーズを丁寧に理解しながら、理念を実体化して行ってほしい。	理念を実体化し、施設の目指すべき目標を職員全員が共有する	開所時より掲げている現在の理念ではありますが、10年がたち、経営側と職員の意識も少しずつ変わってきているかもしれないと感じております。改めて理念に対しての研修会を開催し、理念を見つめなおし、自分たちの目指すべき姿を、具体化したいと考えています。	12 か月
5	2	お金を持たずに産直に行った利用者に「後でいいよ」と言ってくれたり、事業所への慰問公演には住民も10人ほど集まるなど、近隣地域との信頼は利用者生活を豊かにしている。今後も日常的で自然なつきあいを大切にしていってほしい。	地域との交流の継続	自然な形で利用者が地域に溶け込めるよう、外出の支援や、買い物などで外に出る機会を設け、顔見知りの関係を継続していく。	か月